



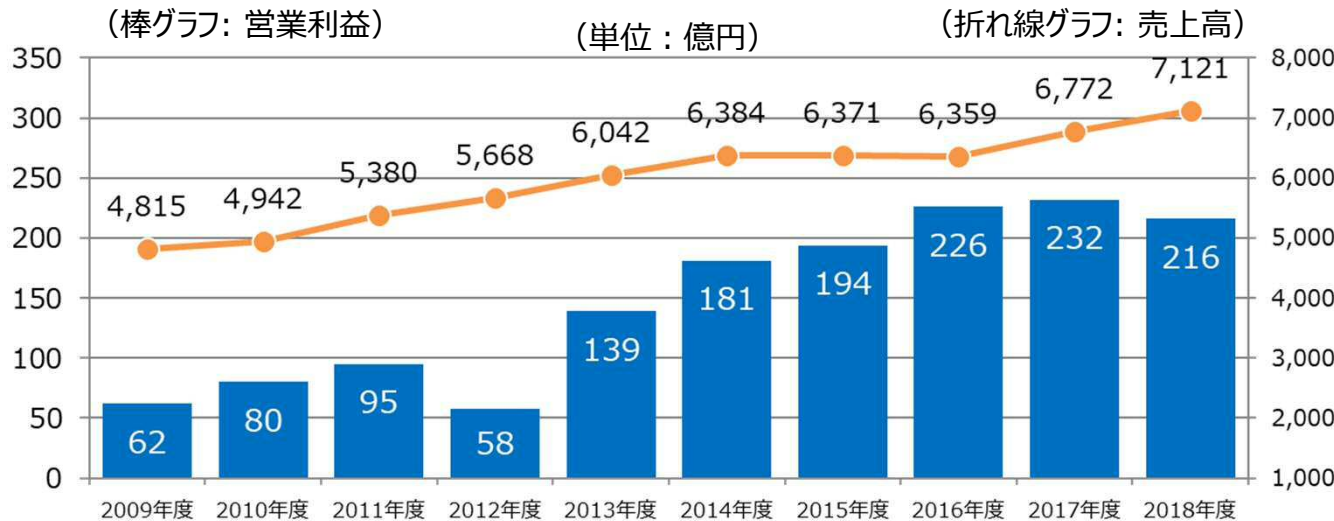
2019年3月期 決算短信補足資料

2019年5月14日
日本水産株式会社

◆ 計画比では各段階損益とも概ね達成し、売上高・経常利益は過去最高を更新。
 前期比では昨年の南米鮭鱒養殖事業の稚魚斃死の影響と、ニッスイ個別の約40億円の有価証券売却益の影響があり、営業利益・当期純利益は減益。

(単位：億円)	2019年3月期 実績	2018年3月期 実績	対前期比増減		2019年3月期 年間計画	増減率(%)
			(億円)	(%)		
売上高	7,121	6,772	348	105.1	7,065	100.8
営業利益	216	232	▲15	93.3	220	98.6
経常利益	253	245	7	103.2	235	107.9
当期純利益	153	172	▲18	89.2	160	96.1

売上高・営業利益 推移



配当推移

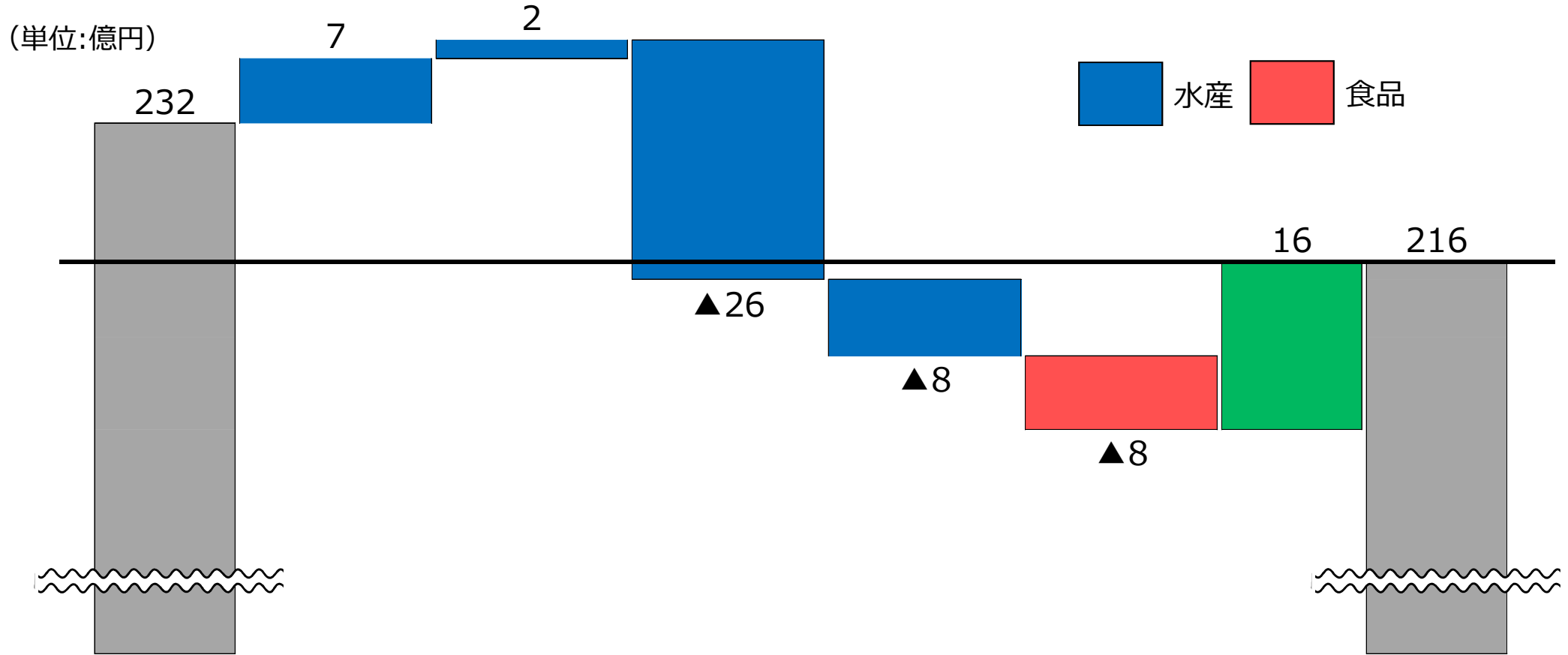


◆全事業増収。営業利益では水産・食品事業が減益。

(単位：億円)	2019年3月期 実績	2018年3月期 実績	対前期比増減		2019年3月期 年間計画	年間計画比 増減 (%)
			(億円)	(%)		
売上高	7,121	6,772	348	105.1	7,065	100.8
水産事業	2,899	2,838	61	102.2	2,882	100.6
食品事業	3,423	3,252	170	105.2	3,382	101.2
ファインケミカル事業	265	258	6	102.5	265	100.1
物流事業	166	163	3	101.8	166	100.4
その他	366	259	106	141.1	370	99.0
営業利益	216	232	▲15	93.3	220	98.6
水産事業	102	110	▲7	93.4	98	105.0
食品事業	119	129	▲10	92.2	124	96.0
ファインケミカル事業	26	25	0	102.7	29	90.1
物流事業	19	19	0	103.1	19	104.8
その他	11	12	▲1	89.9	12	96.4
全社経費	▲62	▲64	1	97.0	▲62	101.2
経常利益	253	245	7	103.2	235	107.9
親会社株主に帰属する当期純利益	153	172	▲18	89.2	160	96.1
EPS(1株当たり純利益)	49.41円	55.33円	-	-	51.42円	-

主な営業利益増減要因

◆北米・欧州の水産事業が増益となる一方、南米養殖事業の大幅減益に加え国内水産・食品事業が苦戦。未実現利益の調整による好転要素あるも、全体で減益。



(主な増減要因)	海外			国内		水産:連結調整 たな卸資産の 未実現利益等	2019年3月期
	2018年3月期	<北米> 水産: すりみ・助子の販売単価上昇、 労務コスト削減	<欧州> 水産: 販売エリア 拡大による増収	<南米> 養殖: 前年の稚魚 斃死による販売数 量の大幅減少に加 え、販売価格が下落	<水産> 個別: えびや鮭鱒な どが苦戦 グループ: 漁撈は増 益、養殖はコスト増 で減益		

◆売掛債権・在庫が増加したが、現預金を活用し借入金は減少。

() 内の数字は前期末比増減

(単位:億円)

流動資産 2,476 (▲55)

現金及び預金	89 (▲137)
受取手形及び売掛金	887 (+40)
棚卸資産	1,287 (+64)

固定資産 2,303 (+12)

有形固定資産	1,375 (+47)
無形固定資産	107 (▲8)
投資その他の資産	820 (▲26)

総資産 4,779 (▲43)

流動負債 2,026 (▲101)

支払手形及び買掛金	494 (+47)
短期借入金	1,040 (▲109)
その他	139 (▲24)

固定負債 1,090 (▲32)

長期借入金	869 (▲18)
-------	-----------

純資産 1,661 (+90)

自己資本	1,463 (+86)
------	-------------

自己資本比率

'18/3 28.6% ⇒ '19/3 30.6%

連結キャッシュ・フロー(前期比)

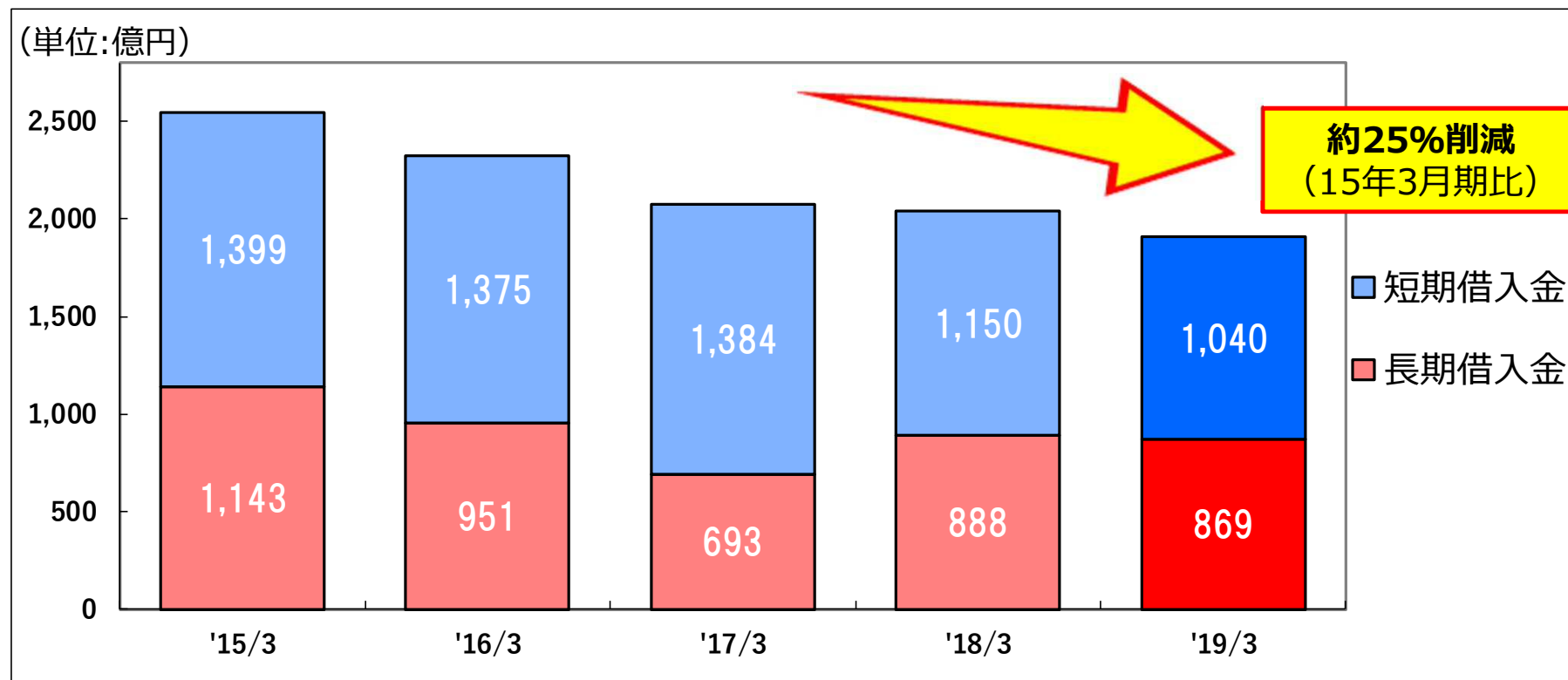


◆概ね前期並みのフリーキャッシュフローを捻出。

(単位：億円)

	2019年3月期 実績	2018年3月期 実績	増減
・税金等調整前当期純利益	246	261	▲ 15
・減価償却費 (のれん償却含む)	185	180	5
・運転資本	▲ 83	▲ 58	▲ 25
・法人税等の支払額	▲ 80	▲ 63	▲ 17
・その他	▲ 19	▲ 36	17
営業活動によるCF	246	283	▲ 36
・設備投資額 (固定資産取得額)	▲ 229	▲ 278	48
・その他	61	62	▲ 0
投資活動によるCF	▲ 168	▲ 215	47
・短期借入金の増減額	▲ 119	▲ 11	▲ 107
・長期借入金の増減額	1	▲ 29	31
・その他	▲ 42	▲ 40	▲ 1
財務活動によるCF	▲ 159	▲ 81	▲ 78
現金及び現金同等物の期末残高	161	243	

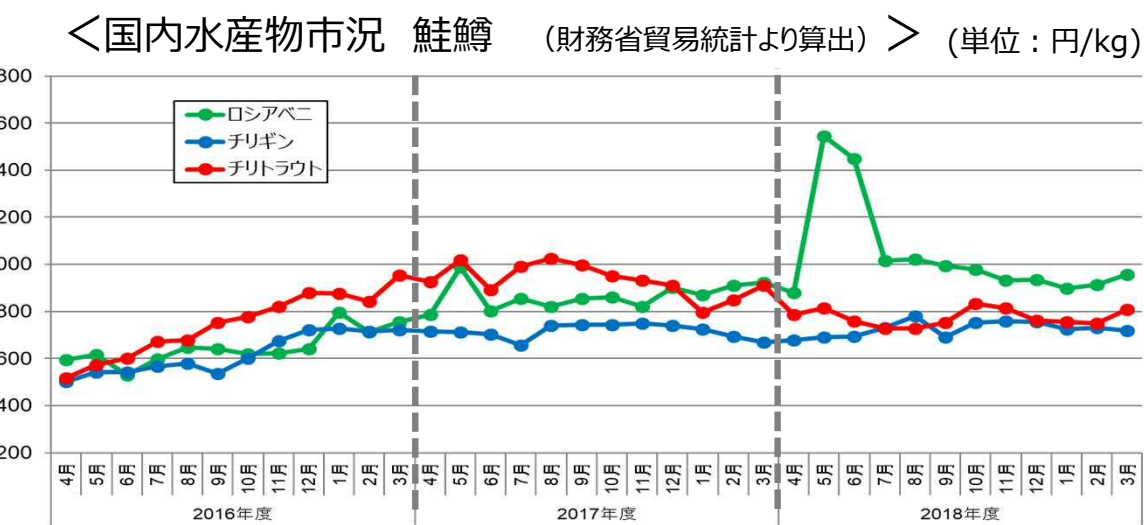
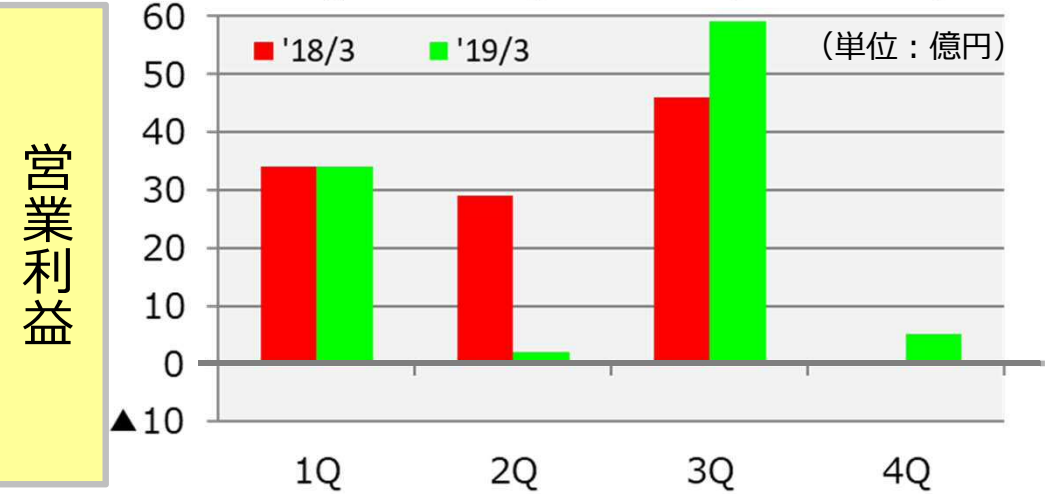
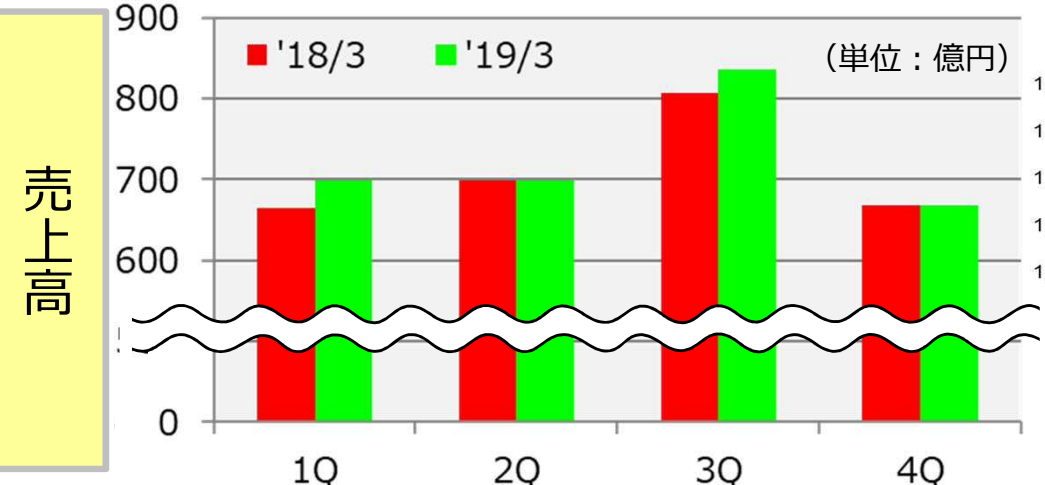
◆借入金は順調に削減が進む。



(単位:億円)	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	(増減)
借入金合計	2,543	2,326	2,077	2,038	1,910	▲128
短期借入金	1,399	1,375	1,384	1,150	1,040	▲109
長期借入金	1,143	951	693	888	869	▲18

◆北米・欧州事業や漁撈事業は増益も、養殖事業の影響により減益。

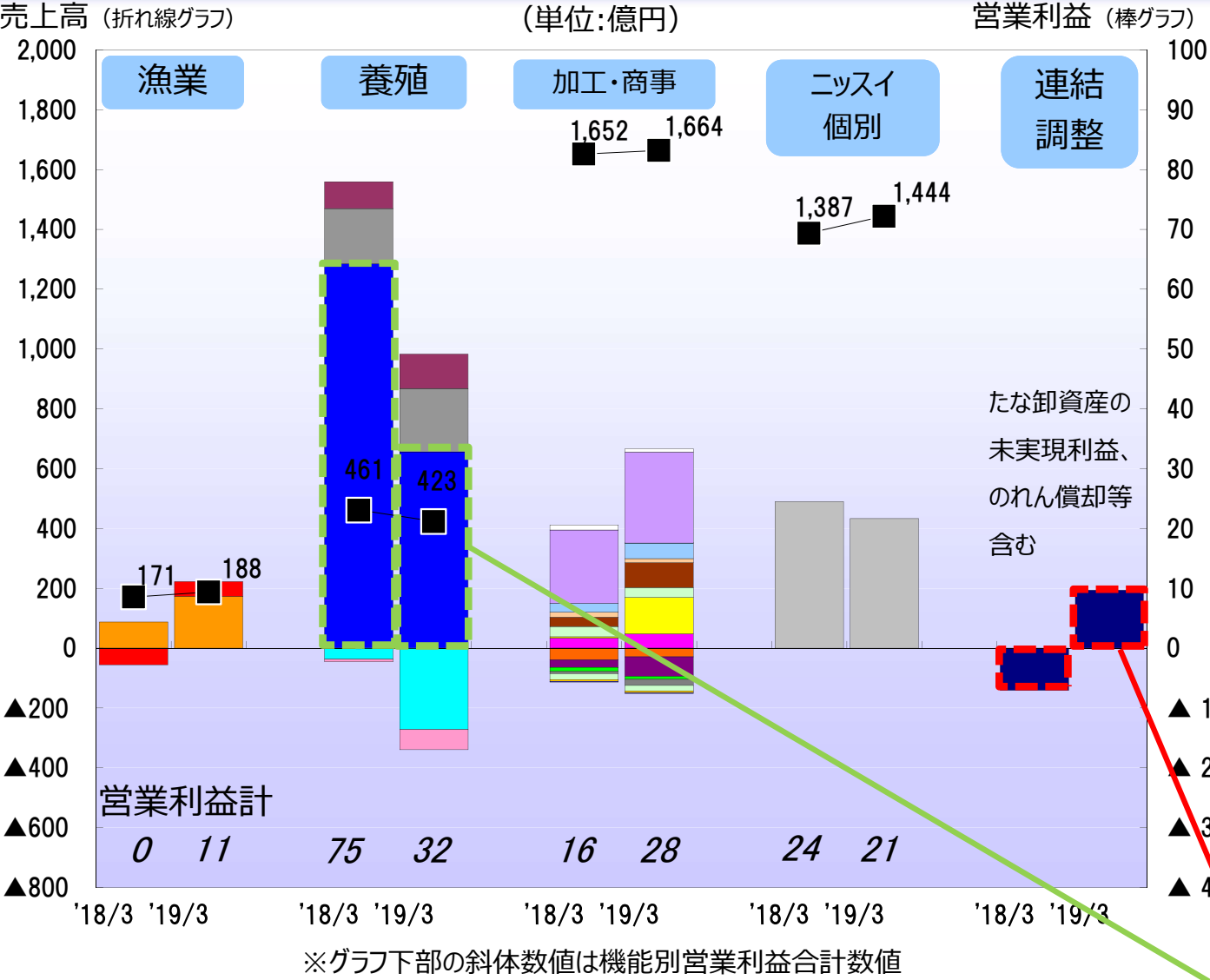
(単位：億円)	2019年3月期 実績	2018年3月期 実績	対前期比増減		2019年3月期 年間計画	増減率 (%)
			(億円)	(%)		
売上高	2,899	2,838	61	102.2	2,882	100.6
営業利益	102	110	▲7	93.4	98	105.0



漁業船の全面改装
↓
操業時の安全確保や生産性向上を図る



水産事業 売上高・営業利益(前期比)



主な増減要因

【漁業】(増収増益)

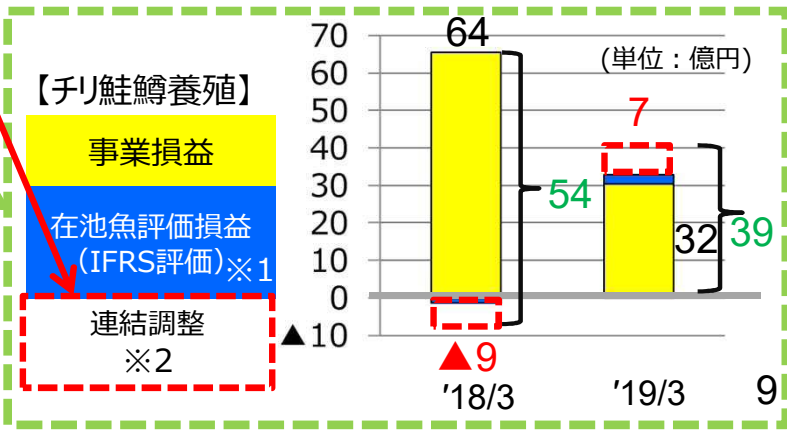
- ・日本：かつおやさば等の漁獲好調
- ・南米：販売価格上昇

【養殖】(減収減益)

- ・国内養殖事業
 - ぶり：販売尾数増、販売価格上昇
 - まぐろ：販売価格低迷・赤潮被害発生
 - 鮭鱒(銀鮭)：生産コスト増
- ・南米鮭鱒(トラウト) 養殖事業
 - 販売数量大幅減・販売価格下落

【加工・商事】(増収増益)

- ・米国加工事業
 - 販売単価上昇やコスト削減により増益
- ・ニッスイ個別
 - すりみ等好調、えび・鮭鱒等で苦戦

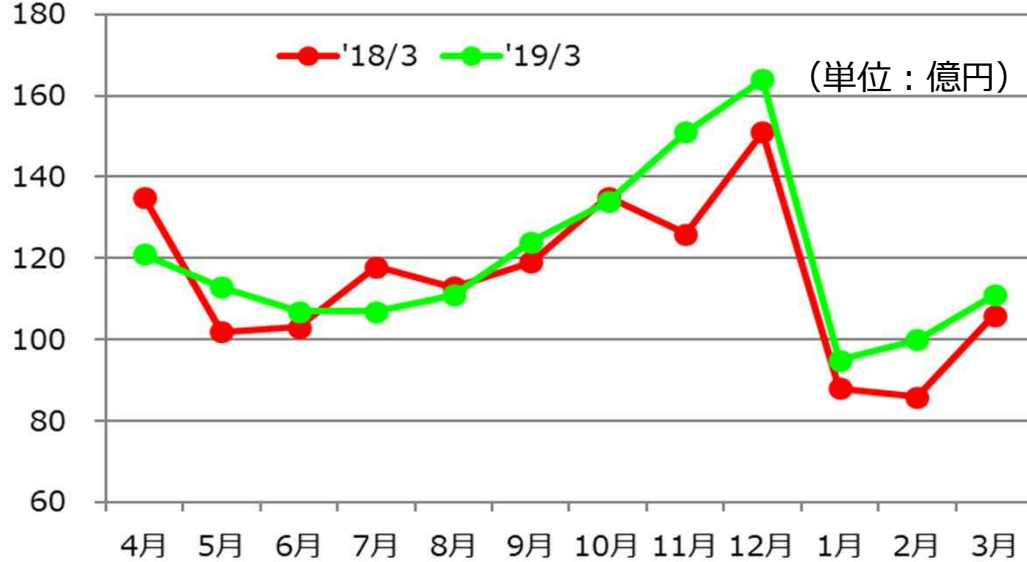


※1 国際財務報告基準(IFRS)に基づき四半期決算毎に出荷・販売前の養殖魚(在池魚)の時価評価を行い、営業損益に計上しております。

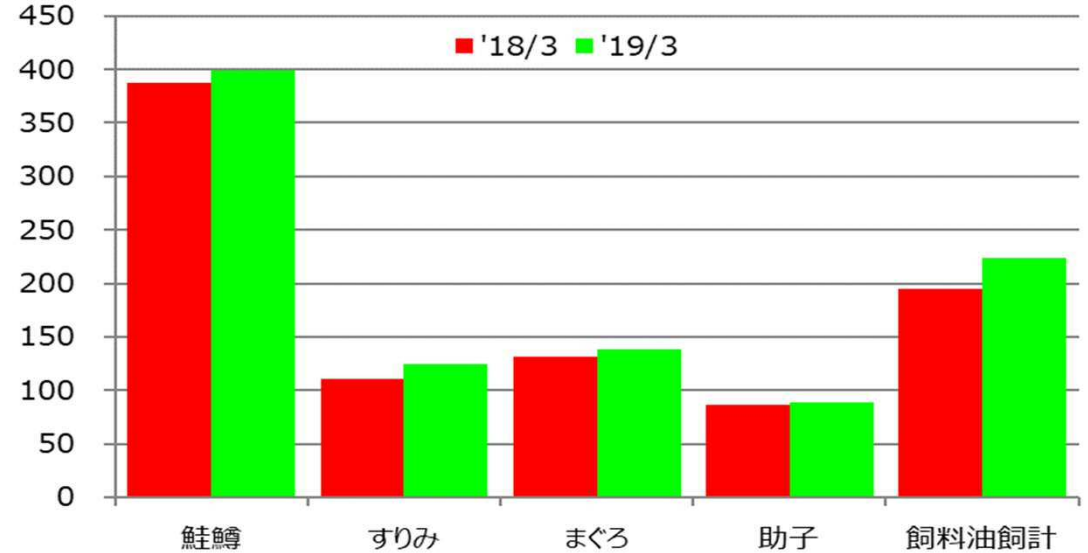
※2 南米鮭鱒養殖事業の在庫に含まれる未実現利益の調整。

◆売上は順調に推移。利益は上期苦戦も下期から回復傾向に。

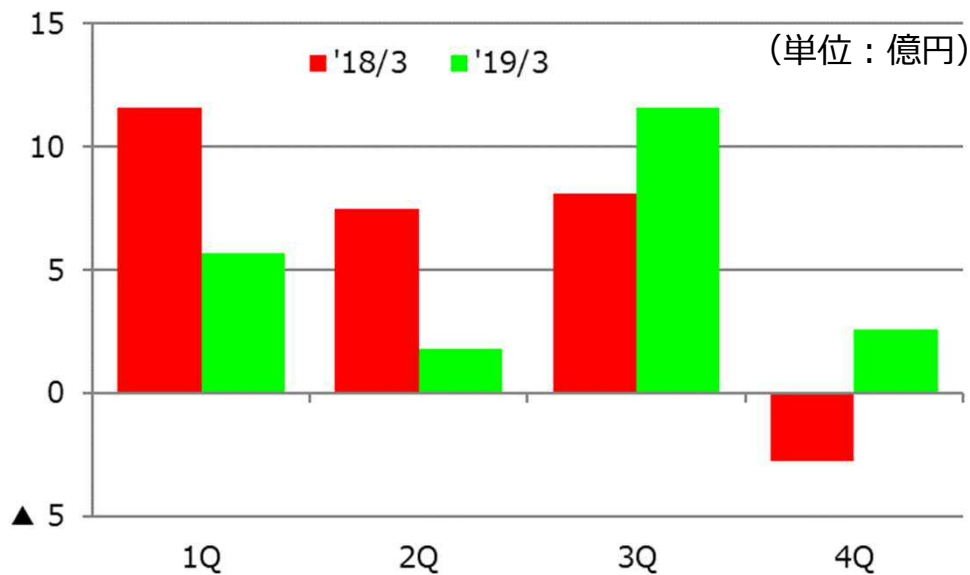
<売上高 (月別)>



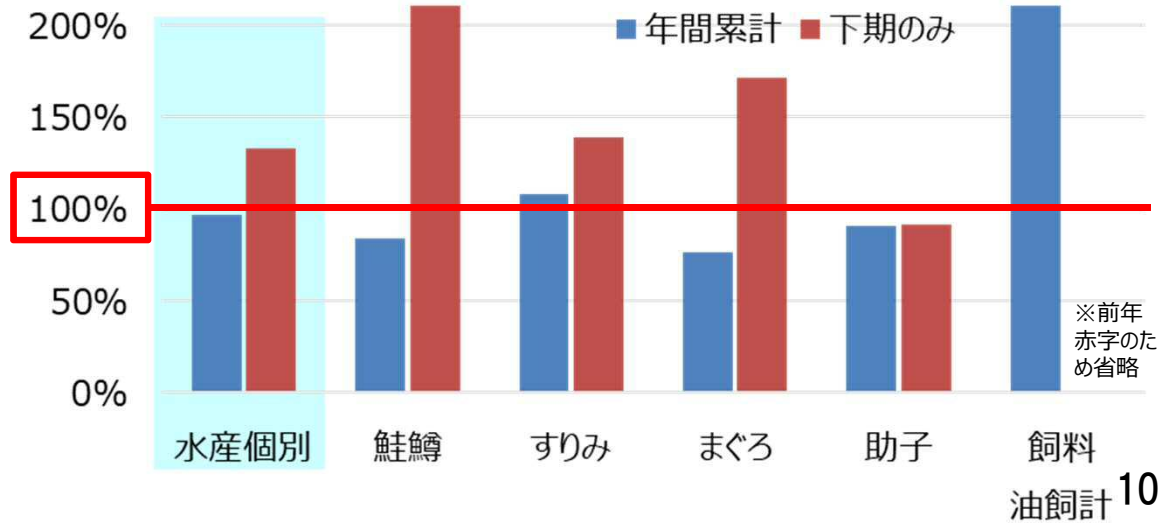
<主要魚種別 売上高 (前期比)>



<営業利益 (四半期別)>

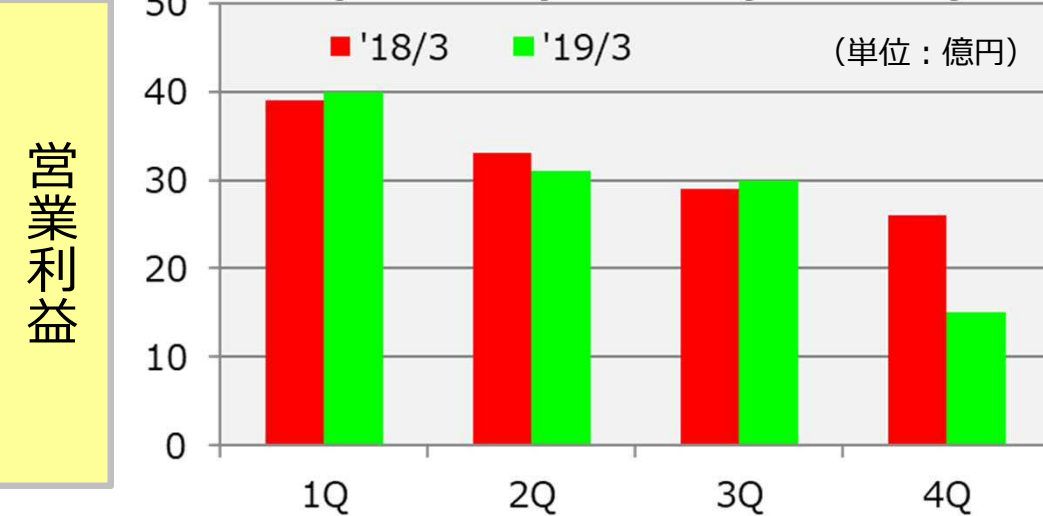
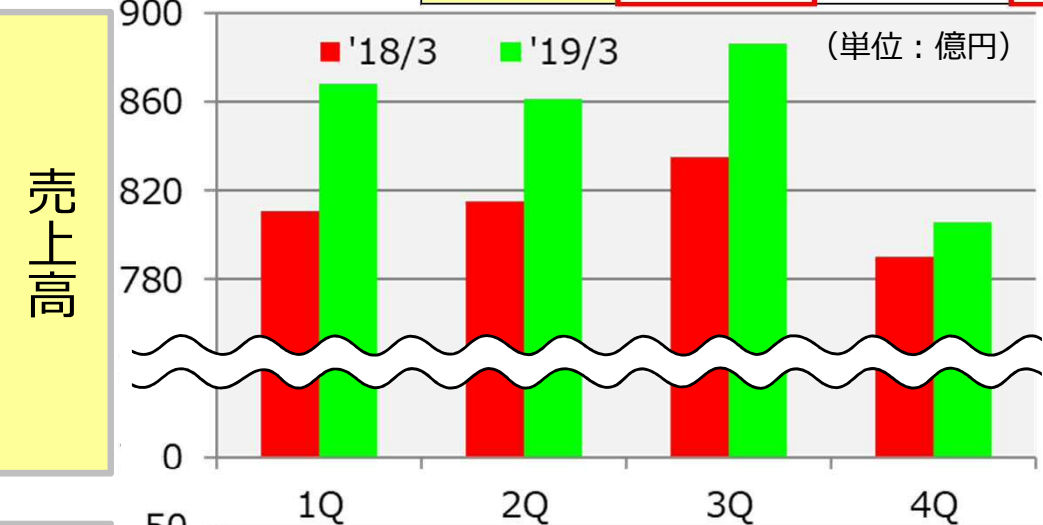


<主要魚種 利益進捗率 (前期比)>

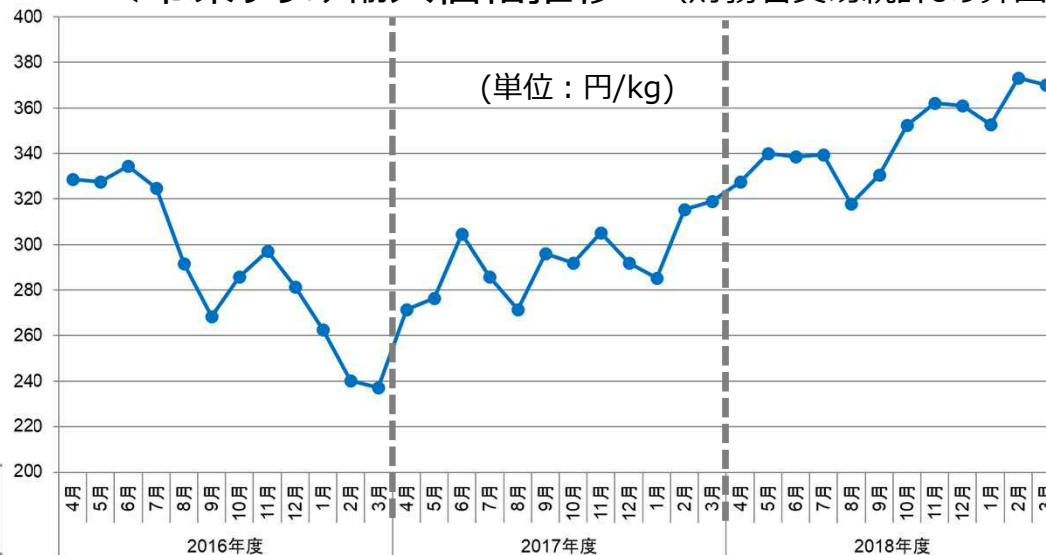


◆原料価格や物流費などの影響に加え、チルド事業の新工場関連費用もあり減益。

(単位：億円)	2019年3月期 実績	2018年3月期 実績	対前期比増減		2019年3月期 年間計画	増減率 (%)
			(億円)	(%)		
売上高	3,423	3,252	170	105.2	3,382	101.2
営業利益	119	129	▲10	92.2	124	96.0



＜冷凍すりみ輸入価格推移 (財務省貿易統計より算出)＞

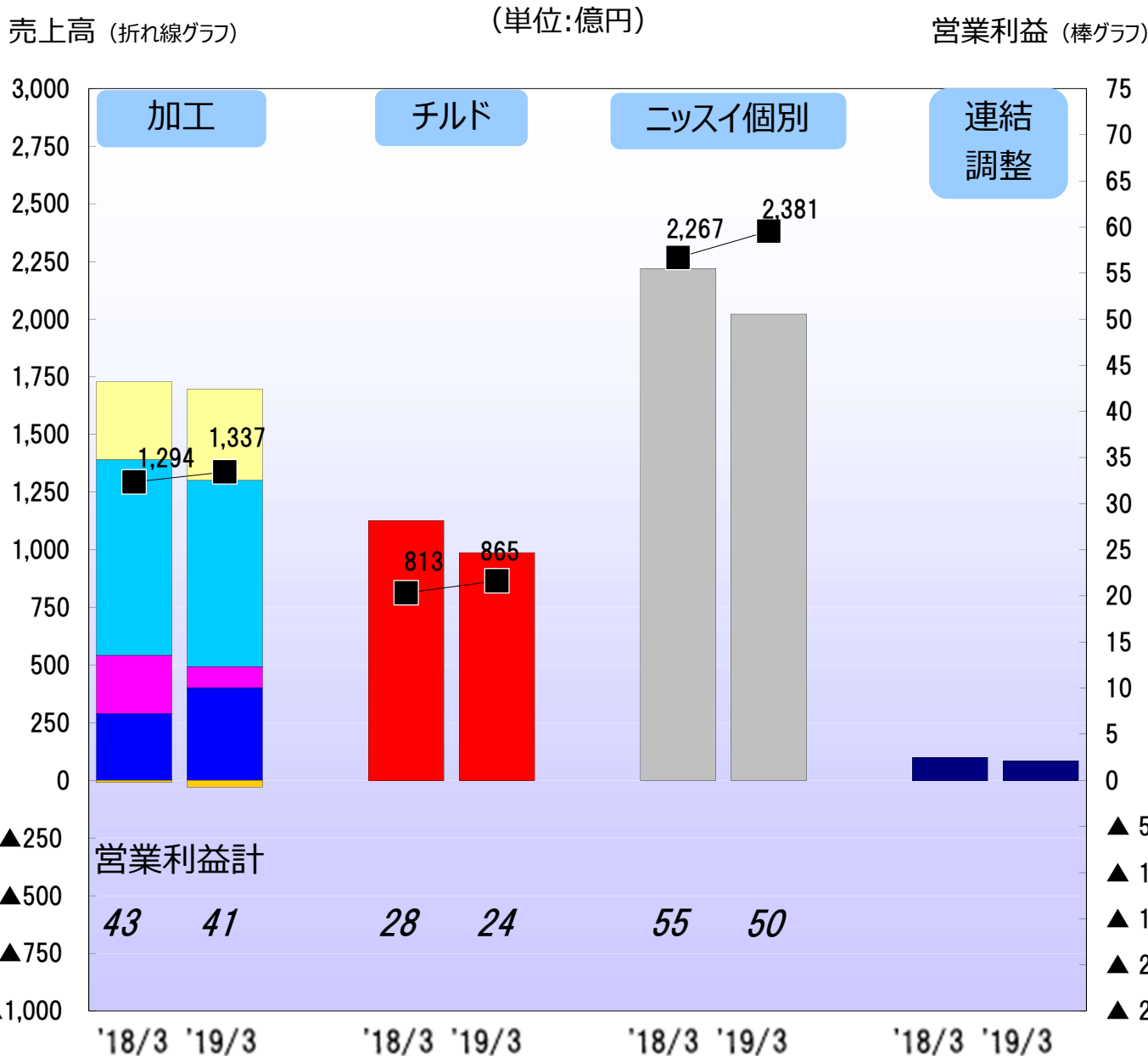


＜チルド工場新設(群馬県伊勢崎市)＞



2019年1月より稼働

食品事業 売上高・営業利益(前期比)



主な増減要因

【加工】(増収減益)

- ・北米 (冷凍食品)
家庭用はコスト削減により増益
業務用は生産性悪化などで減益

・ヨーロッパ

- 生産体制の整備が進み、チルド商品を中心に増収となるも、原料価格上昇などにより減益

・日本

- 冷凍食品は米飯や野菜を中心に伸長したが、すりみなどの原料価格や物流費の上昇などにより減益

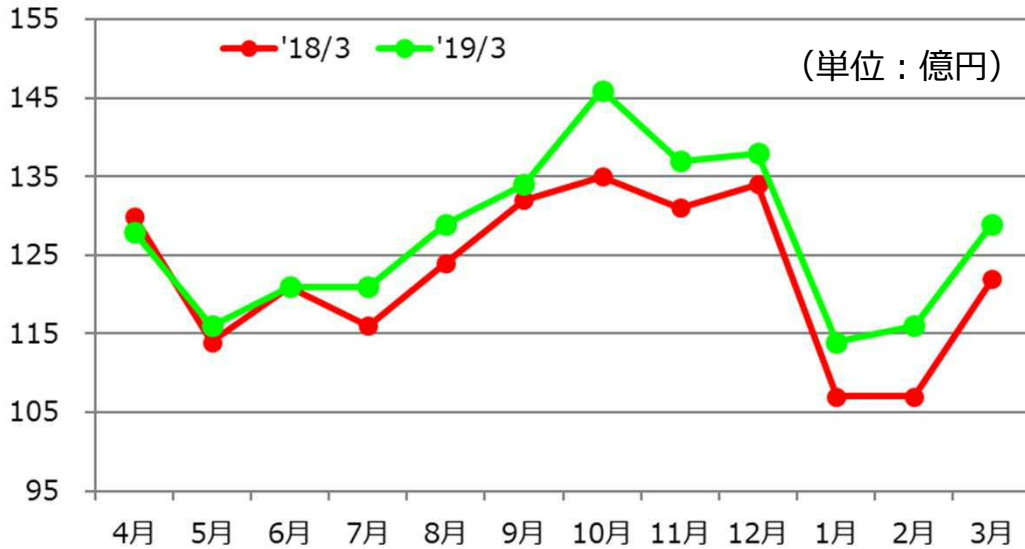
【チルド】(増収減益)

- ・供給店舗増加に加え、おにぎり・麺・弁当類の販売伸長したが、新工場の関連費用があり減益

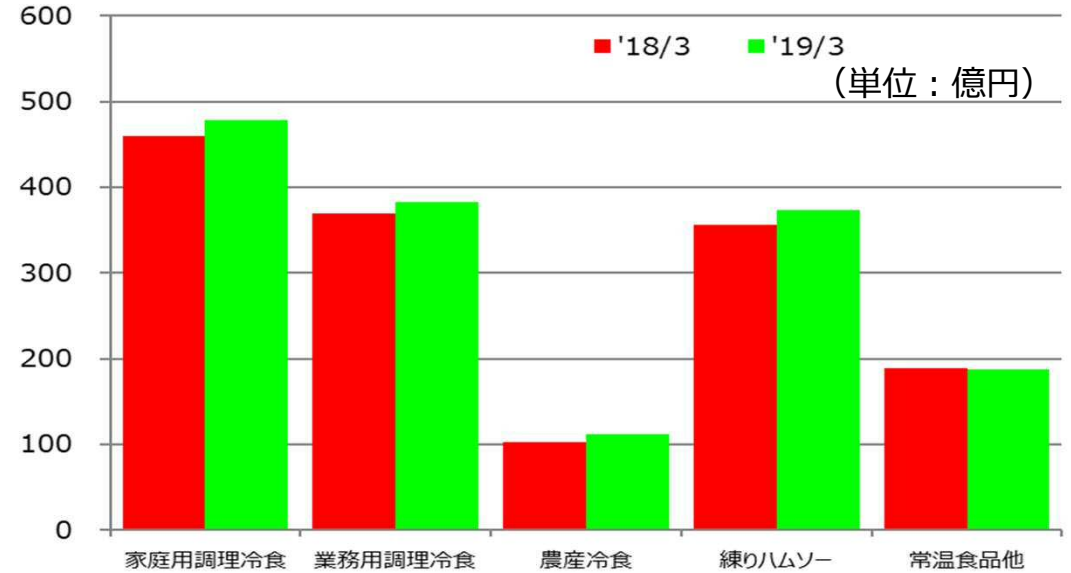
※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

◆各カテゴリで増収も、すりみなどの原料価格の上昇の影響が出始めた。

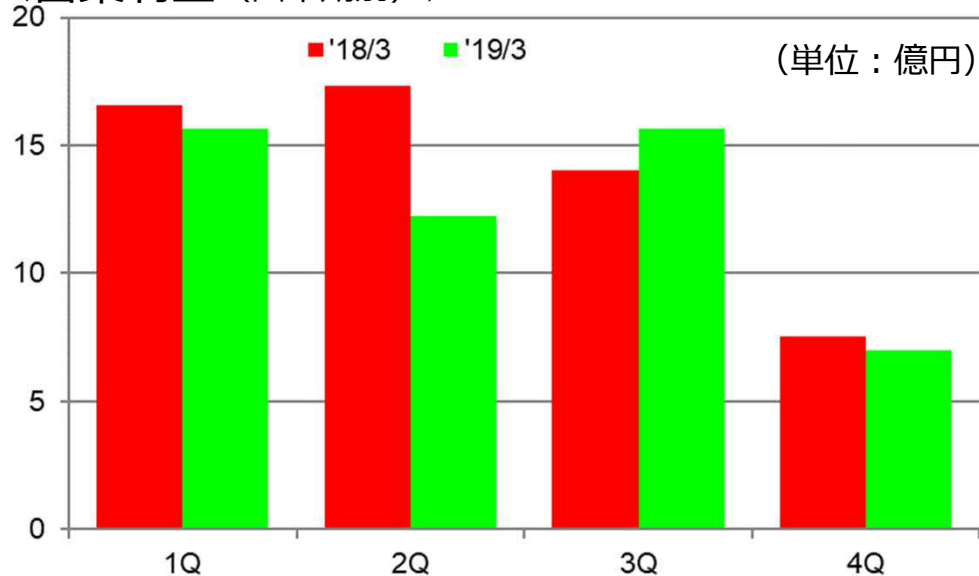
<売上高 (月別)>



<カテゴリ別 売上高 (前期比)>



<営業利益 (四半期別)>



<販売好調な商品>



簡便かつ健康を訴求した商品

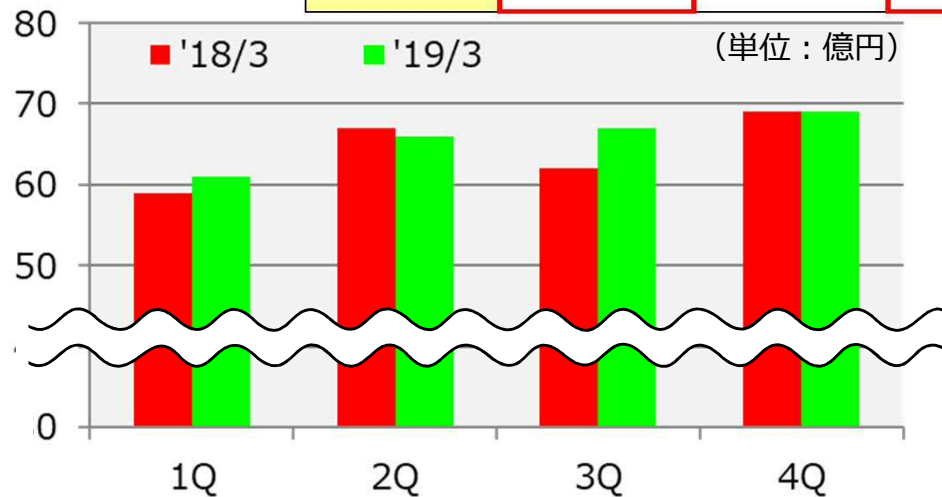


(かにかま調理例)

◆機能性原料の伸長や広告宣伝費の削減あるも、利益は前年並み。

(単位：億円)	2019年3月期 実績	2018年3月期 実績	対前期比増減		2019年3月期 年間計画	増減率 (%)
			(億円)	(%)		
売上高	265	258	6	102.5	265	100.1
営業利益	26	25	0	102.7	29	90.1

売上高



主な増減要因

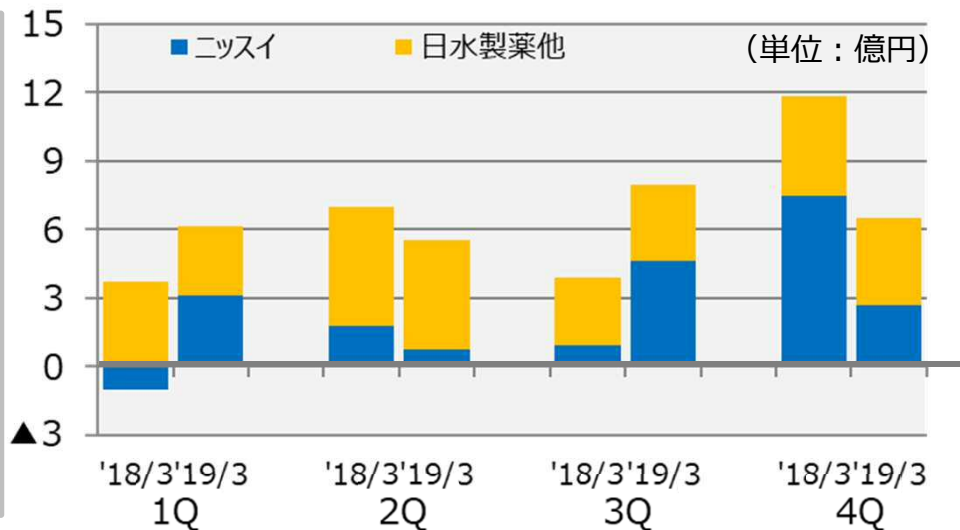
【ニッスイ個別】

- ・機能性原料：国内外で販売増加
- ・機能性食品：通販事業の広告宣伝費の削減

【グループ】

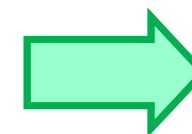
- ・診断薬事業が好調に推移するも、化粧品事業売却の影響などにより減益

営業利益



＜イマークシリーズ累計販売本数＞

2019年3月末で約8,800万本突破



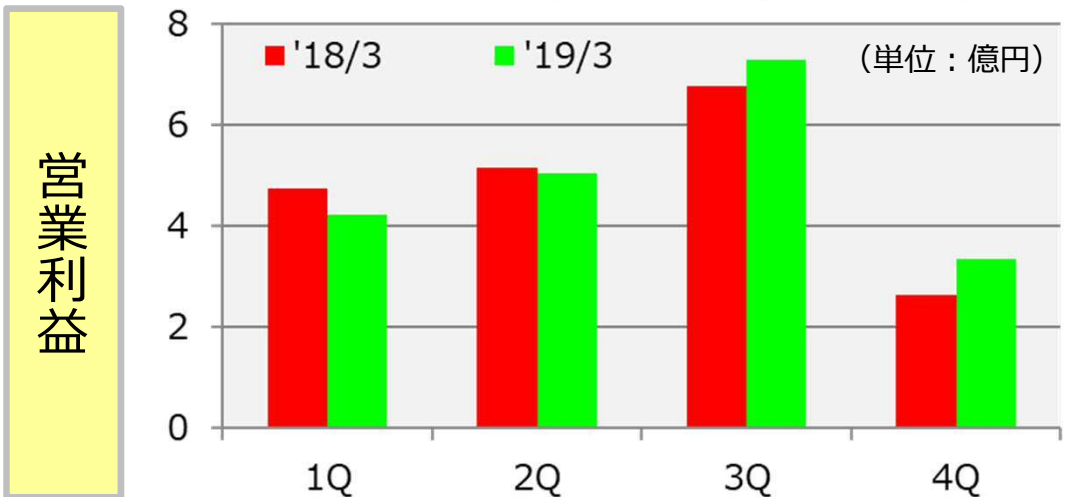
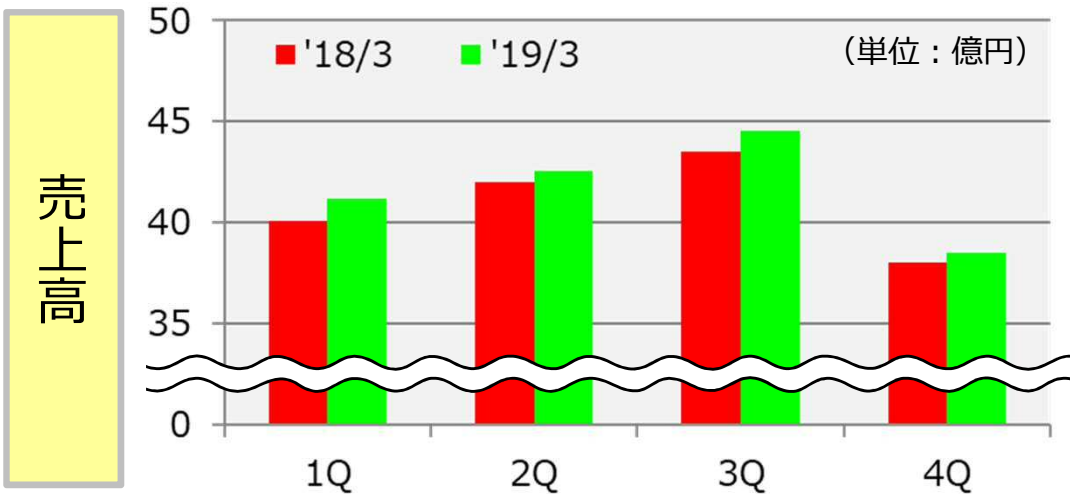
2020年の1億本突破を目指す



◆平和島冷蔵庫の営業再開もあり増収・増益。

(単位：億円)	2019年3月期 実績	2018年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	166	163	3	101.8
営業利益	19	19	0	103.1

2019年3月期 年間計画	増減率
	(%)
166	100.4
19	104.8



主な増減要因

- 平和島冷蔵庫の営業再開もあり増収
- 労務費や電力料などのコスト増加

＜日水物流・平和島物流センター＞



◆主として養殖事業の回復や拡大を見込み、各段階損益とも過去最高を更新する計画。なお、売上高はチルド事業の取引形態の変更により減収。配当は1株あたり8.5円と増配を計画

(単位：億円)	2020年3月期 計画	2019年3月期 実績	対2019年3月期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	7,100	7,121	▲21	99.7
営業利益	240	216	23	110.7
経常利益	265	253	11	104.5
当期純利益	175	153	21	113.8

※チルド事業の取引形態の変更
…2019年2月よりセンターフィー（販売費）と売上高を相殺する価格決定方式に変更となった。この影響で約70億円売上高が減少する見込み。

為替レート・配当推移

	2020年3月期 計画レート	2019年3月期 実績レート	変動率
米ドル (USD)	110.00円	110.36円	▲0.3%
ユーロ (EUR)	130.00円	130.01円	▲0.0%
デンマーククローネ (DKK)	17.00円	17.44円	▲2.5%



◆国内外の養殖事業に加え、国内・北米の食品事業の収益改善もあり増益計画。

(単位：億円)	2020年3月期 計画	2019年3月期 実績	対2019年3月期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	7,100	7,121	▲21	99.7
水産事業	2,987	2,899	87	103.0
食品事業	3,449	3,423	25	100.8
ファインケミカル事業	281	265	15	106.0
物流事業	173	166	6	103.8
その他	210	366	▲156	57.4
営業利益	240	216	23	110.7
水産事業	134	102	31	130.2
食品事業	129	119	9	108.3
ファインケミカル事業	27	26	0	103.3
物流事業	20	19	0	100.5
その他	5	11	▲6	43.2
全社経費	▲75	▲62	▲12	119.6
経常利益	265	253	11	104.5
親会社株主に帰属する当期純利益	175	153	21	113.8

持続可能な水産資源から世界の人々を健康に

～独自の技術を活かし価値を創造するメーカーを目指す～

水産

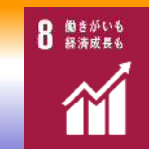
- 養殖事業の**規模の拡大**と**養殖成績の安定化**により成長
- **独自の技術力**を活かし、**差別化**(白身魚たんぱく等)を進め、付加価値商品を拡大し収益力強化

食品

- 即食・簡便や健康訴求の商品群を更に展開。**ライフスタイルの変化への対応力**を強化する
- **生産性や商品力の向上**を通じて、収益力を高める

ファインケミカル

- **高純度EPAの海外展開**のための**最終段階**をしっかりと進める
- 欧州で高まる**DHAの需要増**に対応する



CSR



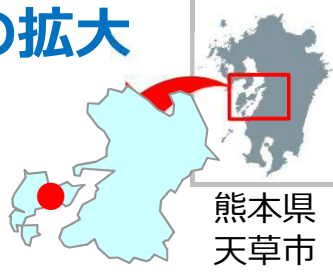
- ①健康経営
 - ②フードロス削減
 - ③水産資源調査
- …など



「**海洋プラスチック**」への
取り組みスタート

水産

養殖規模の拡大



熊本県
天草市

福吉魚類(株)・(株)プリミーの事業取得

養殖成績の安定化



銀鮭種苗内製化、養殖コスト削減

付加価値商品拡大



白身魚をミンチ状にし、幅広い料理で扱える

食品

ライフスタイルの変化に対応



価格改定の実施



自動化・効率化



より機能的な生産体制へ

ファインケミカル

高純度EPAの海外展開の準備



※cGMP・・・米国で適用される医薬品適正製造基準

生産

生産と品質の両面で海外に向けた原料展開の準備を進めていく

品質



※DMF・・・米国FDA(食品医薬品局)による医薬品等登録原簿

水産

食品

ファインケミカル

海洋プラスチックへの取組開始



実態調査やリサイクル推進、従業員への啓蒙活動を進める



フードロス削減の取組み



支援の必要な人々に食糧を提供する活動に参加

缶詰や冷凍食品などの賞味期限年月表示検討



原材料/製品など生産/輸入過程での廃棄削減



健康経営の推進



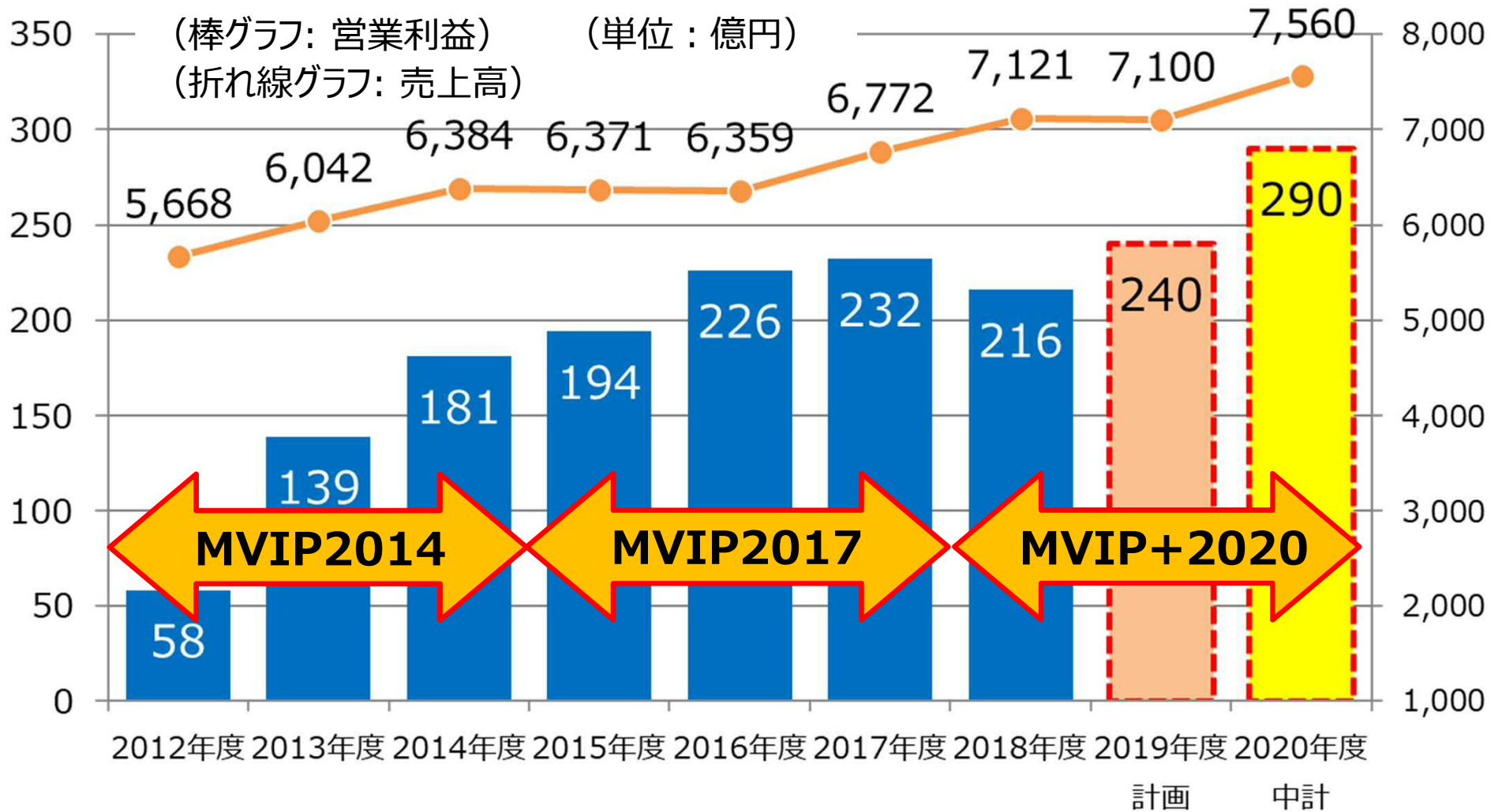
社員のこころとからだの健康増進施策を強化



2019
健康経営銘柄

Health and Productivity

◆国内外とも不透明な要素が多い中、中期経営計画MVIP+2020達成に向け概ね計画通り進行中。
 事業を通じた社会課題解決を進めるとともに、成長に向けた取組みのスピードを上げ、企業価値向上を図る。



【参考】 連結損益計算書(前期比)

◆前期比で増収・減益。

	2019年3月期 実績	2018年3月期 実績	増減	主な増減要因
売上高	7,121	6,772	348	
売上総利益	1,387	1,399	▲ 12	
販売費・一般管理費	1,170	1,167	2	
営業利益	216	232	▲ 15	
営業外収益	55	36	19	持分法による投資利益(+14)
営業外費用	18	22	▲ 3	
経常利益	253	245	7	
特別利益	11	53	▲ 41	投資有価証券売却益 (▲39)
特別損失	18	37	▲ 18	災害による損失 (▲6) 減損損失 (▲6)
税金等調整前当期純利益	246	261	▲ 15	
法人税等	61	79	▲ 17	
法人税等調整額	21	0	21	
当期純利益	163	182	▲ 19	
非支配株主に帰属する 当期純利益	9	9	0	
親会社株主に帰属する 当期純利益	153	172	▲ 18	

※当期連結会計期間より、在外子会社等の収益及び費用については、各社の決算日の直物為替相場により円貨に換算する方法から、期中平均為替相場により円貨に換算する方法に変更したため、遡及適用後の数値で前期連結累計期間との比較を行っている。

【参考】為替換算による影響額(売上高)



◆米ドルで大きな影響はあるも、通貨全体としての為替影響は僅か。

主要在外会社の 為替換算レート	2019年3月期 実績		2018年3月期 実績		前期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	1,092	1,205	1,151	1,291	▲59	▲86	▲66	▲19
EUR(百万ユーロ)	266	345	239	305	26	40	32	7
DKK(百万クローネ)	3,157	550	3,023	518	134	32	21	10
その他通貨	—	235	—	201	—	34	32	1
計		2,337		2,316		20	21	▲0

【参考：為替レート】

	2019年3月期 実績	2018年3月期 実績	変動率
米ドル (USD)	110.36円	112.04円	▲1.5%
ユーロ (EUR)	130.01円	127.22円	2.2%
デンマーククローネ (DKK)	17.44円	17.10円	2.0%

【参考】セグメントマトリックス 売上高(前期比)



◆日本・欧州が伸長。

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	2,429 (76)	444 (▲25)	218 (▲30)	76 (▲4)	551 (32)	3,720 (47)	▲820 (13)	2,899 (61)
	2,353	469	249	81	518	3,672	▲834	2,838
食品事業	3,599 (170)	539 (▲17)		72 (6)	428 (61)	4,640 (220)	▲1,217 (▲50)	3,423 (170)
	3,428	557		65	366	4,419	▲1,166	3,252
ファイン事業	289 (8)			4 (▲0)		293 (8)	▲28 (▲1)	265 (6)
	280			4		285	▲26	258
物流事業	315 (16)					315 (16)	▲148 (▲13)	166 (3)
	299					299	▲135	163
その他事業	465 (44)			1 (▲0)		467 (44)	▲100 (62)	366 (106)
	420			1		422	▲163	259
仮計	7,099 (316)	983 (▲43)	218 (▲30)	154 (1)	979 (93)	9,436 (337)		
	6,782	1,027	249	153	885	9,099		
連結調整	▲1,921 (▲26)	▲142 (1)	▲129 (32)	▲108 (▲1)	▲13 (5)		▲2,315 (11)	
	▲1,894	▲143	▲162	▲107	▲18		▲2,326	
連結計	5,178 (289)	841 (▲42)	89 (2)	45 (▲0)	966 (99)			7,121 (348)
	4,888	883	87	46	866			6,772

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

【参考】セグメントマトリックス 営業利益(前期比)



◆日本・南米で減益。

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計	営業利益率(%)
水産事業	34 (▲8)	10 (7)	33 (▲26)	▲0 (0)	14 (2)		93 (▲24)	9 (16)	102 (▲7)	3.5 (▲0.3)
	43	2	60	▲0	11		117	▲7	110	3.9
食品事業	76 (▲8)	12 (▲1)		8 (1)	19 (▲1)		117 (▲9)	1 (▲0)	119 (▲10)	3.5 (▲0.5)
	85	13		6	20		126	2	129	4.0
ファイン事業	24 (0)			1 (▲0)			25 (0)	0 (0)	26 (0)	9.9 (0.0)
	23			1			25	0	25	9.8
物流事業	19 (0)						19 (0)	▲0 (▲0)	19 (0)	11.9 (0.1)
	19						19	0	19	11.8
その他事業	12 (▲5)			0 (▲0)			12 (▲5)	▲0 (4)	11 (▲1)	3.2 (▲1.8)
	17			0			17	▲4	12	5.0
全社経費						▲63 (1)	▲63 (1)	0 (0)	▲62 (1)	
						▲65	▲65	0	▲64	
仮計	168 (▲20)	22 (6)	33 (▲26)	9 (1)	33 (1)	▲63 (1)	205 (▲35)			
	189	16	60	7	32	▲65	241			
連結調整	5 (4)	▲0 (▲0)	6 (15)	▲0 (▲1)	0 (2)	▲0 (▲0)		11 (20)		
	1	0	▲9	0	▲1	0		▲8		
連結計	173 (▲16)	22 (6)	40 (▲11)	8 (0)	34 (3)	▲63 (1)			216 (▲15)	3.0 (▲0.4)
	190	16	51	8	30	▲65			232	3.4

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益消去等が含まれる。

※当期より、セグメント別の経営成績をより適切に把握するため、セグメントに帰属する販売費及び一般管理費の配賦基準を見直しており、遡及適用後の数値で前期との比較を行っている。

見通しに関する注意事項



本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2019年5月14日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部経営企画IR課

03-6206-7057

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

